

氏名	真 嶋 良 昭
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2295 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	急性腎不全患者における好中球機能に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 大森弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性腎不全患者の感染防御対策をたてるために、非特異的感染防御機構として重要な好中球機能に関して、遊走能・貪食能・ O_2^- 産生能を検べ、また、これらの機能変化をおこす原因として血清中の因子が関与しているかどうかを検討した。急性腎不全患者の好中球においては、遊走能・貪食能・ O_2^- 産生能はいずれも低下していた。急性腎不全患者の血清を Sephacryl S-300 カラムを用いて分子量分画を行なった結果、急性腎不全に特異的と考えられる分子量約 200 ～ 1500 daltons の好中球遊走能抑制因子を認めた。さらにこの抑制因子の遊走能抑制率は、血液透析により約 30% 減少したことより、この抑制因子は血液透析により一部除去可能であると考えられた。以上の結果、急性腎不全患者に対する血液透析は、血清中に存在する好中球遊走能抑制因子を除去するために有効であり、好中球の機能保持対策の面からも臨床的意義のあることがわかった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究では急性腎不全患者の感染防御対策のため好中球の遊走能・貪食能・ O_2^- 産生能と血清中の因子について検討した結果、血液透析は好中球の機能保持上臨床的に有意義であることが明らかとなった。これは臨床的に価値ある新しい業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。